

日向一人吉線

4月1日より



昭和45年4月号

発行所 東郷町役場
編集人

晴れて国道に

舗装も早くなります

県道日向一人吉線が四月一日から国道に昇格し、国道三二七号線として新しいスタートをきりました。

国道に昇格したのは、県道日向一人吉線のうち日向市から椎葉村那須橋までの七十一キロメートルで、うち東郷町内を通過するのは十三キロメートルです。

主要地方道の国道昇格については、全国から激しい陳情運動が続けられていましたが、昨年十二月建設省国道審議会が七十一の全国地方路線とともに国道昇格が内定四月から晴れて国道として発足したものです。

三月三十一日、日向市においても四月から国道に昇格した東北の日向一人吉、延岡一三重、高千穂一津間の三路線国道昇格記念祝賀式が開かれました。

この日は、昇格を祝って椎葉村から諸塚、南郷、西郷、東郷各町村を通過して日向まで車二十台によるパレードを行いました。

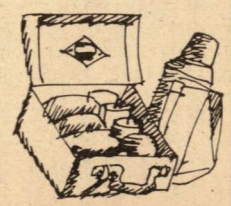
国道に昇格すると①道路改修に伴なう国庫補助率が三分の二から四分の三に増額される②道路整備も重点的に行なわれ、災害復旧工



事などが優先されるなどの特典があり、改良、舗装工事も急ピッチ

ですすみ、産業開発などに果す役割が期待されます。
(写真は国道昇格祝賀パレード)

点滴



花だより

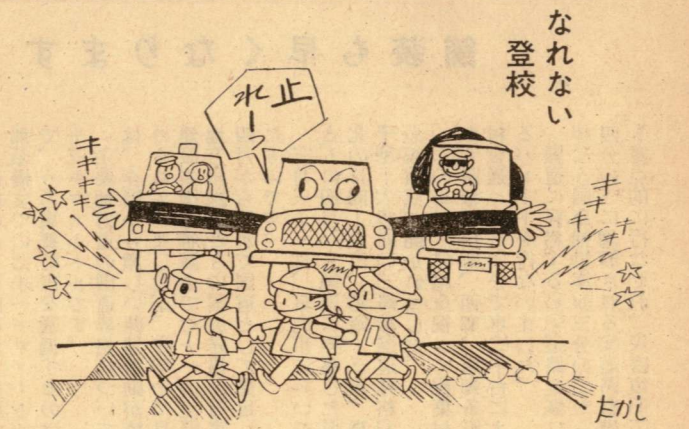
一年を通じて、四月は気温上昇の割合がいちばん大きいといわれます。桜、やまぶき、タンポポ...野に山にようやく花の季節がやってきました。花だよりにさわられて、いよいよ行楽のシーズンに入りますが、花曇りの日も多く、空気が乾燥して、ときおり強い南風が吹きあれます。山火事などにもご注意ください。

▽暖かになると、そろそろ虫が目につきはじめます。かわい虫なら文句はありませんが、どうもあのちよろちよろ台所の付近をはい回るゴキブリはいけません。まず、この害虫の媒体を断つのはネズミであることを認識する必要があります。ゴキブリにしろ、ネズミにしろ、家の内外の清掃がゆきとどいていれぼおのずから絶滅できるものです。ハエや蚊も同様で、不潔にしておいては、いつまでもはびこります。よい天気の日を選び一家総動員で、家の内外をきれいにしましょう。

▽四月になると急に戸外で遊ぶ機会が多くなるせいか、こどもの戸外での事故が目立ちます。交通事故、水の事故に充分注意し、新学期で張りきってやることも健康やかに育てましょう。

雲ふたつ合はむとしてはまた速く分れて消えぬ春の青
牧水

交通事故から子どもを守ろう



なれない
登校

交通事故は年を追うごとに増加し、全国では毎日たくさんの尊い命が交通事故によって奪われています。とくに交通事故から守る手だてを、なに一つもたない子どもが毎日のように奪いとられていきます。

四月の道路は、新入生がたくさん通ります。交通事故の発生は、登校時より下校時に多いようです。登下校はまわり道でも安全な道路を通るように、家庭でも学校まかせにしないでよく注意してやりましょう。

しかし、事故のない平和な一日にするためには、なんとといっても朝のスタートが大事です。子どもを学校や保育所に送り出すにあたっては、次の三つの心得を必ず実行してください。

▽遅刻をさせない
子どもは、遅刻するかも知れないと思うと、ただ遅れまいとの一心から、通学路以外の危険な近道を行ったり、交差点で左右の安全もよくたしかめないとび出したりして、交通事故にあわないとは、時間的に十分ゆとりをもたせて送り出すことが大切です。

▽忘れものをさせない
子どもは、よく忘れものをして登校することがありますが、途中でそのことに気づくと大急ぎで引き返えし、また走って学校へ向かいます。こうしたときのことなどは遅刻をしたことと同じような状態になって、危険な目にあいます。子どもが家を出る場合は、忘れものはないかどうかをたずね、持物を点検してやるぐらいの配慮が必要です。

△叱らない
朝出がけに、親から叱られることを言われたり、叱られたりしたことは、深く沈みこんだり反発心を強くしたりして、少なくとも正常な心理状態ではなくなります。その結果、守らなければならぬことをわざと守らなったり、ときにはやけくそになって危険なことも平気でしたりすることがあります。こうしたことも心理は、思わぬ事故の発生という形ではね返えってくるものですが、登校時には、このことを言わない。叱らないということを守るべきです。

鈴峰園だより

名物の西城公園と成願寺のつつじと自然歩道が美しい季節となりました。その隣にある鈴峰園でも明るく楽しい、いそがしい春になってきました。

自然公園のみごとつつじ類が鶴野内前田組合のみなさんと鈴峰園の奉仕作業や、成願寺の配慮によって着々と整備手入れがすすみ町内外からの訪れを待っています。五十五人のおとしよりも町内のみなさんに負けず元気です。

今年から県において「老人いこいの家」を県内につくり、折にふれ、おとしよりの集いや足腰をのばしておたがい話し合い励まし合う場所にする構想ができています。

現在、全国の老人クラブの数は七万八千で、会員は四百六十七万人に達しています。宮崎県では千七百五十五の老人クラブがあります。

す。七十、八十は鼻たれ小僧、まづこれからです。

鈴峰園は現在満員ですがいろいろなご相談に応じています。皆さんの老後の生活相談など喜んでお相手いたします。町の内外を問わずおとしよりの楽園、いこいの家としてご利用ください。

前にも申しあげましたが「揺れるペンダント」のネームの若い方からこの月も慰問と激励に添えて金一封が届けられました。一同感謝しています。いつの日かお目にかかり直接お礼を申しあげたいと思います。

また、鶴野内の塗木豊、寺田弘の両氏から見事なツゲの大木を贈られました。雨の朝にも、風の夕べにも一つの景観を添えており感謝いたします。

鶴亀のよわい願わば食べ物をつるつるのますかめよかめかめ

四月六日から十五日まで「昭和四十五年春の全国交通安全運動」が全国いっせいに実施されました。この運動は、昭和二十三年秋以来、毎年春秋二回実施され、今回は第四十四回に当たります。

春の運動は、ここ数年五月中旬に実施されてきましたが、本年は

①上半期における交通事故死者数の状況
②新入学期における子どもの交通事故防止との関連
③ゴールデンウィークにおける交通事故多発の抑制

等を考慮し、この運動の一層の効果を高めるため、四月に繰りあげて実施いたしました。

交通事故は年を追うごとに増加し、全国では毎日たくさんの尊い命が交通事故によって奪われています。とくに交通事故から守る手だてを、なに一つもたない子どもが毎日のように奪いとられていきます。

四月の道路は、新入生がたくさん通ります。交通事故の発生は、登校時より下校時に多いようです。登下校はまわり道でも安全な道路を通るように、家庭でも学校まかせにしないでよく注意してやりましょう。

しかし、事故のない平和な一日にするためには、なんとといっても朝のスタートが大事です。子どもを学校や保育所に送り出すにあたっては、次の三つの心得を必ず実行してください。

▽遅刻をさせない
子どもは、遅刻するかも知れないと思うと、ただ遅れまいとの一心から、通学路以外の危険な近道を行ったり、交差点で左右の安全もよくたしかめないとび出したりして、交通事故にあわないとは、時間的に十分ゆとりをもたせて送り出すことが大切です。

▽忘れものをさせない
子どもは、よく忘れものをして登校することがありますが、途中でそのことに気づくと大急ぎで引き返えし、また走って学校へ向かいます。こうしたときのことなどは遅刻をしたことと同じような状態になって、危険な目にあいます。子どもが家を出る場合は、忘れものはないかどうかをたずね、持物を点検してやるぐらいの配慮が必要です。

△叱らない
朝出がけに、親から叱られることを言われたり、叱られたりしたことは、深く沈みこんだり反発心を強くしたりして、少なくとも正常な心理状態ではなくなります。その結果、守らなければならぬことをわざと守らなったり、ときにはやけくそになって危険なことも平気でしたりすることがあります。こうしたことも心理は、思わぬ事故の発生という形ではね返えってくるものですが、登校時には、このことを言わない。叱らないということを守るべきです。

交通安全家族会議を開こう

昨今の交通事情が、交通戦争と

われわれは、叱られたりしたことは、深く沈みこんだり反発心を強くしたりして、少なくとも正常な心理状態ではなくならず、その結果、守らなければならぬことをわざと守らなったり、ときにはやけくそになって危険なことも平気でしたりすることがあります。こうしたことも心理は、思わぬ事故の発生という形ではね返えってくるものですが、登校時には、このことを言わない。叱らないということを守るべきです。

いわれるような状況にあり、いつ誰が交通事故の被害者となるか保障のできないときであるだけに、わたしたちは自己防衛のためにいろいろなと勉強し、事故にあわないよう、事故をおこさないように心がけなければなりません。

ですから交通安全運動期間だけでなく、月に一回ぐらいいは家族会議を開き、交通のまきまりや事故防止対策を話しあい、こどもにしっかりとしつけをつけることが望まれます。

ここで改めて人命の尊さを思い悲惨な交通事故を一件でも少なくするために町民のみなさんご協力をおねがいいたします。

たばこは地元の店で

たばこ販売数量の増加は、たばこ消費税の増加につながることはご存じのことと思います。

自分の住んでいる町で、たばこを買うと、その町に、一箱当たり(二十本入) 十三円十八銭が税金として入ってきます。四十四年度の決算では、六百三十九万九千円というたばこ消費税が町の収入になりました。

今年、万国博が行なわれています。お出かけの方も多い事だと思いますので、たばこは、町内の店で買って行くようにしましょう。又買う際には、宮崎県の観光たばことし、観光宮崎、太陽とみどりの国をPRして下さい。

安定した農業 国営開パ事業の推進で

米の生産調整、畜産物の価格の暴落など、農業をとりまく諸情勢の変化によって、将来の農業経営に不安を感じておられる農家が多いと思います。このようなきびしい条件のなかにはたされていくわが国農業については国をあげてその解決に努力中です。

町でも将来の農業は、どのような条件に対しても安定した農業ができるよう経営規模の拡大をはかり、その地域に合った適作目を選定し、作目別営農集団によって農地の造成および施設などによって農産物を整備し集団の力によって各種の悪条件も克服できるように体制づくりを計画しています。

国営開拓パイロット事業では、その目的に合致する用地の調達などもほとんど完了し、みかん、養蚕の先進地視察、将来の農業情勢

に明るい学者の講演を行なうなど農家の意識向上に努めて来ましたが、さらに次のような事業計画をすすめていますので、この事業の優位性を再認識していただき、自立経営農業確立のため積極的に取り組んでいただきますようご協力をおねがいいたします。

一、参加農家の選考
この事業に参加を希望する農家のなかから①後継者の有無②投資資金の償還能力の有無③稼働労働の有無④意欲の有無などを参考に百八十戸の参加農家を選びました

二、用地の取得
用地の配分―自己所有山林以外の土地を増反する農家に、買収した土地を配分し、自己所有山林同様の移転登記をしていただきますことについては、農家に説明会で納得していただきました。

頌徳祭開く

役場庁舎の庭にある「頌徳の碑」前、四月一日、頌徳祭が行なわれました。

この碑は、昭和十五年八月二十六日、役場庁舎落成式当日除幕されたものです。

碑文は「村政に大きな功労のあった人々の遺業をしのび遺徳を讃え後世永くその名をとどめ村人に

ちの道しるべとしてこの碑を建て」と刻まれてあります。

碑文の示すように町政、産業、文化、経済などのあらゆる面で町の進展に偉大な功績のあった人々の功労を讃えるとともに、町に住む人たちの道標として建てられたものです。

現在この碑に刻まれている先賢者は、新名馬治、高森順蔵、奈須熊吉の三氏です。

この日は、遺族をはじめ、町内から五十人の参席のほか、三氏の遺業をしのび、遺徳をたたえ感謝いたしました。

東郷町は町政全般にわたって年々進展してきましたが、今、社会情勢の急激な転変と経済の高度成長に伴なうひずみの波は、わが町にも押しよせています。

いわゆる七十年代を迎えました。この年代は飛躍の年代、技術革新の年代などといわれています。本町もまた躍進の年代であり、繁栄の年代でなければなりません。先輩の教えとともに、たくましく、豊かな社会、明るい町づくりのため、町をあげて努めねばならないと思えます。

町青年団役員決る

東郷町青年団協議会の総会が、三月十五日、中央公民館で開催され、七十人の会員が出席した。午前十時半より、東郷町農協の黒木組合長の欧米視察についての講演がありました。

午後一時より、昭和四十四年度決算の承認、昭和四十五年度の予算の審議を行ない、それぞれ原案どおり議決いたしました。

引きつづき、昭和四十五年度の町青協の役員選挙が行なわれ次のとおり新役員が誕生しました。

会長 佐藤正行(迫野内)
副会長 森田正春(鶴野内)
直野ヤスヨ(福瀬)
事務局 平野宇市(福瀬)
会計 黒木由美子(坪谷)
体育部長 那須成章(坪谷)
文化部長 黒木喜長(寺迫)
家政部長 高森富美(小野田)
産業部長 (サップ会長が担当)

町の話題

養蚕農家の勉強会

3月28日、中央公民館で養蚕組合総会が開かれました。総会にさきだち鐘淵織維KKの香掛久雄博士の「将来への蚕糸情勢について」という講演があり、150名の養蚕農家の人が勉強しました。



胃ガン検診に列

3月26日から28日中央公民館などで胃の集団検診があり胃の痛み、もたれなどを訴える人250人が受診しました。朝食抜きでタバコもめず、フラフラしながらも長い列ができていました。



ベラ 地帯として明確な位置づけがなされており、広域濃密団地に含まれております。今後の産地競争に対処するために近代的な開園工法をとり、トラクター・営農体系による高度省力技術を導入し、樹園地かんがいによる経営安定と増収をはかる特色ある計画がすすめられていきます。

養蚕 国民生活の向上に伴ない衣生活の向上と高級化によって、絹の消費は増加し、本県の養蚕は全国上位の伸びを示しています。

近年養蚕地帯は山間養蚕に移行しており、この地域もかんがい方式をとり入れ機械化による近代的集団営農計画をすすめています。

養蚕の営農集団は、機械の管理効率の運用から、一集団あたり経営耕地面積を十二畝とし、共同経営、共同作業体系で極力推進するよう計画しています。

桑の導入品種も、現在普及している品種ですが、今年、高冷地用として日田尾団地に試験作付を行いました。



おとしよりのみなさん

老令年金の請求は 済みましたか

国民年金の老令福祉年金は、満七十才になったおとしよりに支給されます。町内では五百五十七人のおとしよりが一千九万五千円の年金を受給しています。今回の国

民年金法の改正により、年金額が二万四百円から、二万一千六百円に増額されたのを始め、所得制限等で今まで支給停止されていた人の中にも、制限が緩和されて、受給できるようになった人もおられます。また、夫婦で共に福祉年金を受けている場合は、三千円ずつ夫婦合せて六千円支給停止されていましたが、これも廃止されてより多くの年金が受給できるようになりました。このように充実した年金を請求するのを忘れてはいませんか？ 年金は、本人が請求して受けるのが、原則とていない人は、今すぐ、印かんと、手数料(戸籍関係証明)を持って、役場の福祉係へおいでください。

教職員異動

転入(一)は旧任校▽東郷小 奥村満彦(都農中) 平川恵美子(大王小) 岩本幸枝(恒富小) 中瀬鉄雄(富高小)▽福瀬小 今井藤子(高鍋西小)▽坪谷小 千坂厚(寒川小) 高山大九郎(高鍋西小) 福井剛二(山瀬小)▽越表小 安武稔男(本城小)▽寺迫小 江川正知(岩脇中)▽東郷中 中村亜夫(西米良中) 山本正幸(日向中) 宮田三郎(岡富中) 黒木勇(門川中) 森迫謙四郎(七ツ山小) 伊能順子(北浦中) 高島謙一(大堂津小)▽坪谷中寺原郁夫(南方中) 日高嘉郎(日の影中) 根来恵美(八戸中) 岩切梓(西米良中)▽越表分校小 牧俊一(坪谷中) 小牧八寿子(坪谷中) 転出(一)は新任校 ▽東郷小 林裕恭(鞍岡小) 黒木義和(田辺小) 佐藤ツタエ(南小) 坂本淳(富高小)▽福瀬小 杉田

昭和四十五年度区長氏名

▽寺迫 高野敏男▽福瀬 橋口登▽小野田 峯瀬清美▽鶴野内 寺原国義▽迫野内 野田浅也▽八重原 橋本時雄▽田野 田原吉之助▽羽坂 吉田寿美▽仲深 三浦得栄▽坪谷 寺原鉄伸▽瀬平 海野新明▽越表 河野定男▽下渡川 甲斐繁春



藩領地と幕領地

塩月 儀市

本町を治めた最初の大名は高橋氏である。高橋氏は豊臣秀吉の朝鮮征伐に参加して七か年従軍し帰陣の際、産業技術にすぐれた朝鮮人を同伴して来て産業技術の進歩に意を用いたので本町もその影響を受けたであろうが詳かでない。

戸籍だより

二月届出分

出生 おめでとう

赤ちやんの名	父の名	部落
矢野 認	知 義	坪谷
黒木 美穂	康 義	寺迫
近藤 忍	強 義	坪谷
黒木 典子	文 雄	迫野内

結婚 おめでとう

鶴三 原美喜代	羽野
森田 雅幸	福瀬
田月 幸	鶴野内

郷土の今昔 (3)

高橋氏の次が有馬氏である、有馬氏は産業方面に力を注ぎ植林、木炭製造などはじめた、本町の製炭は今から三百年ばかり前にはじめられた。この頃の生産物は米、麦、そば、粟の外干鮎、塩鮎、鮎ウルカ、漬炭、漬筍、半紙、茶、菜種、ゴマなどである。藩主有馬永純のとき郡代、代官の悪政に堪え兼ねて元禄の悲史山陰百姓一揆の起ったことはあまりにも有名である。この罪で有馬氏は無城の藩糸魚川へ移された。その後が三浦氏、次が牧野氏、次に内藤氏が磐城国から延岡に転封され内藤藩置県まで八代百二十年の間延岡藩主としてつづいた。山陰百姓一揆の起った翌々年の元禄五年に幕府は坪谷村、下三ヶ村を幕領として廢藩までつづいた。内藤氏時代の石高は山陰村一六一二石四升八合、八重原迫野内二

死亡ご冥福を祈ります

直中 野田 禮子	三七才
小田 田 伊太郎	六六才
中野 林 茂太郎	六七才
小居 義一	六〇才
又居 宗三郎	五九才
見軒 宗三郎	五六才
野田 福	迫野内
田坪 迫野	坪谷
野内 瀬	野谷

人口	45年3月1日現在
男	3,608人
女	3,941人
総数	7,549人
世帯数	1,799世帯



編集するといふ 筆 ことは、人びとの 想像もできないほどの 精神活動を いられませう。町報 を読んでいただくに だけのことか常心に 配しながら編集して います。 新年度最初の町報が 遅れてしま した。ようやく皆さん のお手 にお届けできますが 遅れまし たことお許しください。 就職、進学そして 結婚など新しい スタートの多い四月 ですから、張りき っって頑張りましょ う。